

# 新潟病院附属看護学校 交流事業 「看護を考える」

- 実習の流れ
- 開始・自己紹介
- 演習①コミュニケーション  
(患者の生活や体調など)
- 演習②バイタルサイン測定  
(体温・脈拍・血圧)
- 演習③ケアの実施  
(手浴、足浴のいずれか)
- 振り返り  
(グループワーク)

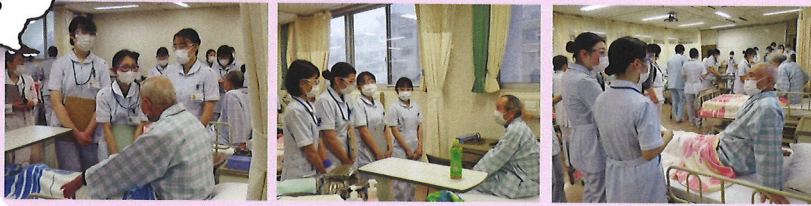


1月24日、新潟病院附属看護学校において、1年生(39名)と、模擬患者役の老人クラブ会員(10名)との看護演習が行われました。

高齢者への初めての対人実習は、緊張しながら看護を行い、初々しく質問をする生徒さんへ、模擬患者の会員が優しくアドバイスをしていました。生徒さんが一生懸命に取り組む姿勢から、講義で学んだことを実践したいと意欲が感じられました。

今日の体調や気分はどうですか？

## <コミュニケーション>



今回の実習を終えて、生徒さんは新潟病院での実習が始まるそうです。今回の経験が励みとなり、患者を支え、寄り添いながら、地域や社会に貢献する看護師になることを願っています。

## <バイタルサイン測定>

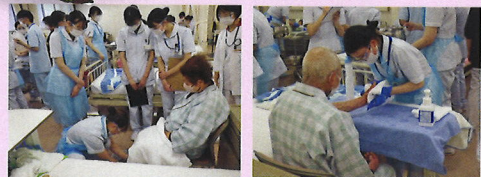
脈拍と血圧を測ります。



## <ケアの実施>

とても気持ち良くて体も温まります。

お湯の温度は熱くないですか？



『実習に参加して』 老人クラブ会員の声

- ・初めての实習に少し緊張して参加しましたが、生徒さんの丁寧な言葉遣いと笑顔に優しさを実感しました。
- ・生徒さんの技術にためらいが出た時に、先生がそっと合図を送ると、生徒さんが直ぐに修正する姿と熱い眼差しに、看護師を目指す心意気を感じました。
- ・手浴の時に、怪我で固くなり血行の回りにくい指先をほどよく握ってくれて、心を込めたマッサージは嬉しかったです。
- ・孫のような年齢の生徒さんが一生懸命に話をしてくれて、初々しく清々しく、丁寧な言葉で接していただき、嬉しく思いました。
- ・生徒さんの緊張をととも感じました。「初心忘れるべからず」で、今回の気持ちを大切に、今後の実習に励んでほしいと思います。

『実習を終えて』 看護学生の声

- ・初めて高齢者の方に看護を行い、声の聞こえ方、皮膚の状態や脈拍、血圧など、自分達の身体と大きく違うことが分かりました。
- ・看護技術だけに集中せず、患者さんにリラックスしてもらえように、声かけを行う必要があることを学びました。
- ・最初のコミュニケーションは患者さんの状態を知るためにも重要なので、しっかり伝わる声量、内容であることが大事と感じました。
- ・患者さんの好みを会話の中で聞きながら、手浴のお湯の温度設定や、指圧の強さを変えることが必要だと思いました。「気持ち良かった」と言ってもらえて嬉しかったです。
- ・緊張して看護技術に時間を使い過ぎてしまっただが「練習あるのみ」と言っていたいただき、自分の足りない技術に気づくことができました。